

Fahmi Alqhai & Hiroyoshi Shomura

古楽界の鬼才!

# ファミ・アルカイ

ヴィオラ・ダ・ガンバ

# & 荘村 清志

ギター

## デュオ・リサイタル

無限に広がる音の世界へ

日本を代表するギタリスト

©Javier Diaz de Luna

©Hiromichi NOZAWA

## スペイン音楽の黄金時代 † 16&17世紀

ディエゴ・オルティス  
Diego Ortiz (1510-1576)

レセルカーダ オッタヴァ「ラ・フォリア」

Recercada Ottava (La Folia)

レセルカーダ 1番

Recercada I

イタリア・テナーによるレセルカーダ 1番、2番

Recercadas I & II sobre tenores italianos

アントニオ・デ・カベソン

Antonio de Cabezon (1510-1566)

作者不詳 & F. アルカイ

Anonymous & Fahmi Alqhai

アントニオ・デ・カベソン

Antonio de Cabezon (1510-1566)

「貴婦人の望み」による変奏曲

Diferencias sobre "La Dama le Demanda"

「ラ・ジャカラ」と「ラ・フォリア」による変奏と即興

Diferencias sobre Guárdame las Vacas

「アヴェ・マリス・ステラ」による4つの対旋律

Variation & Improvisacion sobre la Xacara y la Folia

L.V.d.エネストローサ & F.アルカイ

Luis Venegas de Henestrosa (1510-1570) & Fahmi Alqhai

ルイス・デ・ミラン

Luis de Milan

サンティアゴ・デ・ムルシア

Santiago de Murcia (1673-1739)

アンドレア・ファルコニエーリ

Andrea Falconieri (1585-1656)

ガスペル・サンズ & F.アルカイ

Gaspar Sanz (1640-1710) & Fahmi Alqhai

「牛を見張れ」による変奏曲

4 Contrapuntos sobre el Ave Maris Stella

6つのパヴァーヌ (ギター・ソロ)

Seis Pavanas

ファンダンゴ

Fandango

甘美なる旋律、スア・コレンテ

La Suave Melodia, sua corrente

マリサパロス (ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソロ)、

マリオナス、カナリオス

Marizapalos, Marionas, Canarios

休憩無し・約75分

2023. **6/11(日)** 2:00PM開演 (1:30PM開場)  
A ¥4,500 B ¥3,500 (税込/全席指定)

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 阪急西宮北口駅南改札口すぐ/JR西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

一般発売

2/26  
(日)

芸術文化センター  
チケットオフィス

インターネット予約

※窓口での販売(残席がある場合)は2/28(火)より

☎ 0798-68-0255

(10:00AM-5:00PM 月曜休み ※祝日の場合翌日)

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

芸術文化センター会員先行予約受付開始 2/25(土)

※未就学児はご入場いただけません。  
※やむを得ない事情により、曲目等が  
変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



兵庫県立  
芸術文化センター



主催:兵庫県、兵庫県立芸術文化センター

華麗なるスペイン黄金時代の音楽  
古楽界の鬼才ファミ・アルカイ & ギター界の名匠 莊村清志

スペイン出身の古楽界の鬼才ファミ・アルカイは、幼少の頃よりエレキ・ギターを愛する少年だった。音楽家を目指した頃、ヴィオラ・ダ・ガンバと運命の出会いを果たす。これまでのヴィオラ・ダ・ガンバのイメージを払拭し、新たな生命を吹き込んだ。莊村清志はギター界の重鎮であり、スペインのギター音楽を日本に知らしめた先駆者である。アルカイの演奏を初めて聴いた際には絶賛し、それ以来親交を深めてきた。“スペイン”という繋がりを持つ2人が満を持して初共演する。卓越した感性がぶつかり合い、スペイン黄金時代の音楽を華麗に披露してくれるに違いない。

ファミ・アルカイは現代のヴィオラ・ダ・ガンバ奏者の中で最も異彩を放つ高名な若手演奏家と評価され、その独特で伝達能力に優れたアプローチからも、古楽レパートリーの解釈者としても認められている。

76年、スペインのセビリャ生まれ。94年セビリャのマヌエル・カステーヨ音楽院でヴェントゥーラ・リコに師事するまで独学で学ぶ。その後も名門バーゼル・スコラ・カントルムでパオロ・バンドルフォに、スヴィツェラ・イタリアーナ音楽院(ルガーノ)でヴィットリオ・ギエルミに師事し更なる研鑽を積む。2002年、アカデミア・デル・ピアチューレを創設、アンサンブルの音楽監督を務める。

2014年、グロッサ・レーベルでソロ・アルバム「ア・ピアチューレ」を初録音、その楽器への革新的な着想は欧州全域で高く評価され、グラモフォン誌(英)は“ファミ・アルカイはヴィオラ・ダ・ガンバを喜びの可能性に満ちた新境地へと導く”と大絶賛される。

若い頃から世界的に名高い古楽アンサンブルに招待され、エスベリオンXXI(ジョルディ・サバル)やイル・スオナル・パルランテ(ヴィットリオ・ギエルミ)などのグループでレギュラー・メンバーを務める。

2009年以来、スペインで最も重要な古楽音楽祭、アーリー・ミュージック・フェスティバル・セビリャ(FeMAS)で芸術監督を務めている。



©Javier Diaz de Luna

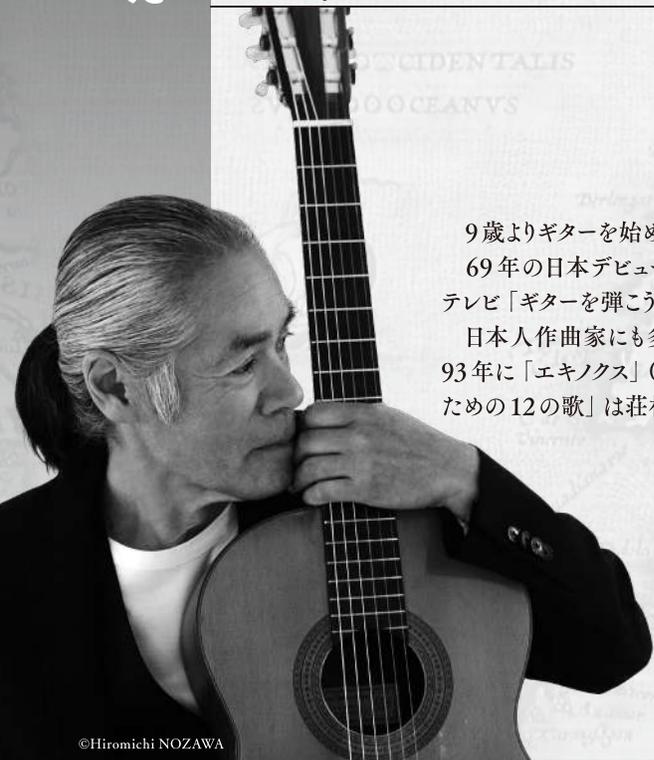
ファミ・アルカイ

&

莊村 清志

Kiyoshi Shomura

Fahmi Alkhai



©Hiromichi NOZAWA

9歳よりギターを始める。1963年に巨匠イエベスに認められ、翌年スペインで師事。

69年の日本デビューで、「テクニック、音楽性ともに第一人者」との高い評価を得る。74年にはNHK教育テレビ「ギターを弾こう」に講師として出演し、一躍全国にその名と実力が知られることになった。

日本人作曲家にも多数作品を委嘱、新作の初演にも意欲的である。とくに武満徹には74年に「フォリオス」、93年に「エキノクス」(初演94年)を委嘱し、ギタリストにとって重要なレパートリーの一つとなっている。「ギターのための12の歌」は莊村清志のために編曲され77年に初演・録音、「森のなかで」を96年全曲初演を行った。

2008年ビルバオ交響楽団の定期演奏会に出演。同団とは《アランフェス協奏曲》を録音、09年にCDをリリース、また同団との日本ツアーを行い好評を博した。

2014年デビュー45周年を記念して東京にて大友直人指揮東京都交響楽団と協奏曲3曲を演奏。2015年10月にはイムジチ合奏団と共演、レコーディングを行い、ジュリアーニ、ヴィヴァルディのギター協奏曲を含むアルバムが16年1月にリリースされた。また16年は武満徹の没後20年に際し、莊村が委嘱、初演を数多く手がけた同氏のギター曲を各地で演奏、好評を得た。2017年から20年のデビュー50周年に向けてギターの様々な可能性を追求する「莊村清志スペシャル・プロジェクト」(全4回)に取り組む。現在、東京音楽大学客員教授。

《チケットご購入のお客様へお願い》新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします

- ※芸術文化センターでのご購入は、お一人様4枚までとさせていただきます。
- ※新型コロナウイルス感染症陽性の方、37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。
- ※マスクを着用されない方はご入場いただけません。
- ※やむを得ない事情により、公演の中止や、出演者・曲目などが変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。



ご来場前にウェブサイト掲載の〈当センターをご利用のお客様へ〉をご確認ください →

アクセス

